

長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	030	事業名	交通安全事業	担当部課	くらし文化部安心安全課
------	-----	-----	--------	------	-------------

基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 人がいきいきとつながるまち	会計区分	一般会計
	まちづくり行程表・フラッグ	✓ 「あんしん」～助けがなかったら生きていけない人は全力で守る～	予算区分(款 一 項 一 目)	
	第6次総合計画・基本目標	✓ 誰もがいきいきと安心して暮らせるまち	2-1-11 交通安全対策費	
	法定受託事務の有無	—		
	その他(関係計画、要綱等)	—		
事業開始の背景、経緯等	交通事故のない社会の実現を目指した取組を推進し、市民が安全に安心して暮らすことができる社会の実現に寄与することを目的とする。			

事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 交通安全街頭活動及びキャンペーンの実施、並びに高齢者及び自転車利用者等を対象とした交通安全教室の開催等を行う。		
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民		
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識を高め、交通事故のないまちを目指す。		
	事業を構成する事務事業(B票)	① 交通安全対策事業	改善・見直し	④
	② 交通安全啓発事業	改善・見直し	⑤	
	③		⑥	

コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	事業費(A)	千円	決算	予算	19,677	18,408	18,458	18,172
決算				18,554	17,108	17,084	17,608	
人件費(B)	千円	決算	-	3,819	4,752	4,769		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	-	20,927	21,836	22,377		

成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
	A 人身事故	件	目標	341	328	291	327	281
			実績	345	306	344	296	
	B		目標					
			実績					
C		目標						
		実績						
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など)								
A 市内で発生した人身事故の件数(5%減少を目指す)								
B								
C								

環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 平成27年6月1日の道路交通法の改正により、交通の危険を生じさせるおそれのある一定の違反行為(危険行為)を反復して行った自転車の運転者に対し、自転車運転者講習制度が始まった。
------	-----------------------	---

評価	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) 人身事故件数は、前年を下回り、目標を達成した。
	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 子どもを対象とした交通安全教室の実施に加え、高齢者を対象とした講習会を開催した。
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 人身事故件数は、前年を下回り、目標を達成したが、交通事故被害者の約6割が高齢者であることから、高齢者の事故を減少させるための周知、啓発を行って行く必要がある。

今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) より多くの市民に周知、啓発できるよう、啓発方法等を検討する。
	中長期の目標	(いつごろまでに事業をどのような状態にしたいか) 市内で、交通事故死ゼロの日が1日でも長く継続することを目標に、継続して啓発活動を行う。

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	・令和元年度からは、第6次長久手市総合計画の基本構想・基本計画を踏まえて、事業を進めてください。
------	-------------------------	--

長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

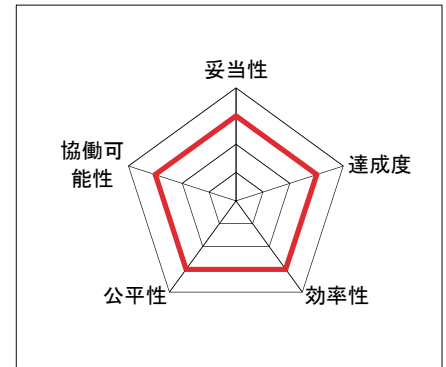
事業(A票)名	交通安全事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	①	交通安全対策事業	予算区分	2-1-11 交通安全対策費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・児童を対象 ・交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。 ・市内にある6小学校すべてに、交通指導員を各校2名ずつ配置している。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交通安全教室・指導を通して、児童生徒が自らの身の安全を守る行動ができるように育成する。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算 決算	16,284 15,521	15,282 14,117	15,278 14,389	14,922 14,458	15,109
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		交通指導員報酬					12,332 千円
(2)		消耗品費					902 千円
(3)		交通安全協会愛知支部負担金					684 千円

【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市内保育園や幼稚園の協力を得て、交通指導員による交通安全教室等を実施した。				

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
交通指導員人数	人	見込	12	12	12	12	12
		実績	12	11	12	12	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
交通指導員が児童に対し、交通安全教育、登下校の通行指導や交通安全のための各種啓発活動などを行う。							

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)	
交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ内容の交通安全教室を実施した。	

4. 事務事業を取り巻く環境変化

(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など)
・交通指導員は、実践的な交通指導を目的として各小学校区に配置しているが、最近では、児童の安全確保全般に期待されると感じる。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
平成31年度より、交通指導員が2名欠員となることから、引き続き募集を行うとともに、勤務体系についても検討が必要である。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況		
(前年度【予算額】)	(今年度【予算額】)	(増減額)
14,922 千円	15,109 千円	187 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》		
・前年度【今後の方向性】	現状維持	
・前年度【コメント】	交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ交通安全教室の内容を検討する。	
(3) 改善状況		
(何をどのような状態に改善したのか)		
交通指導員が、日頃の交通安全指導の中で、特に伝えたいと感じている、指導ポイントを盛り込んだ内容の交通安全教室を実施した。		

7. 今後の方向性

改善・見直し

長久手市行政評価票 (B票：事務事業評価票)

事業(A票)名	交通安全事業		担当部課	くらし文化部安心安全課	決算書ページ	—
事務事業名	②	交通安全啓発事業	予算区分	2-1-11 交通安全対策費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	平成16年度	終了(予定)年度	—		

1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) ・ 市民対象 ・ 交通安全に関する講習会やキャンペーンを実施する。交通事故被害者の約6割が高齢者が占めており、高齢者に対する啓発がより必要となってきた。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 交通安全意識の向上を図る。

2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	3,393	3,126	3,180	3,250	2,885
		決算	3,033	2,991	2,695	3,150	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1)		消耗品					2,765 千円
(2)		印刷製本費					307 千円
(3)		交通安全啓発グッズコンクール賞品					68 千円

3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
交通安全講習会開催回数	回	見込	21	25	25	25	25
		実績	33	32	40	33	
		見込					
		実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児交通安全教室 ・ シルバー安全講習会 							

4. 事務事業を取り巻く環境変化

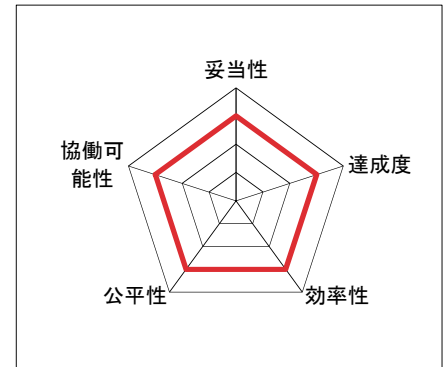
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 交通事故被害者の約6割が高齢者である一方で、高齢者が加害者と交通事故も社会的に取り上げられることが多くなった。

5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
3,250 千円 2,885 千円 Δ 365 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・ 前年度【今後の方向性】 現状維持
・ 前年度【コメント】
小中学生を対象とした「交通安全啓発グッズデザインコンクール」は市独自の取り組みであり、また、交通安全意識の向上のためには、子どものころからの意識付けが重要であることから、引き続き事業を継続していきたい。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
高齢者が交通事故に遭わないよう、高齢者に特性に合った啓発を行った。

6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	3



【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込				
実績				
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市内の大学等や高校の協力を得て、交通安全啓発キャンペーンを実施した。				

【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
長久手市自転車の安全利用の促進に関する条例を制定した。

【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
市内において、高齢者が被害者となる交通死亡事故発生した。今後、高齢者が被害者とならう啓発を行う必要がある。

7. 今後の方向性

改善・見直し